

優しい風の吹く街



10/30『第45回・駅前議会』宝塚ホテル

2023年がスタートしました。コロナ禍の3年間で過ぎ、街は賑わいを取り戻しつつありますが、安心して過ごせる生活にはまだ辿り着いていません。コロナ禍だけではなく、不安定な世界情勢の影響もあり、物価高騰が長い間続いています。そのことによって、生活が苦しくなっている方が増えていることは重大な課題ととらえています。私はこれからも、子どもたちや弱い立場の人々に寄り添い課題解決できるよう一緒に頑張っていきます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

活動報告

- | | |
|----------|-------------------------------|
| 10/12 | 議員定数のあり方に関する特別委員会 |
| 10/19・20 | 全国市議会議長会研究フォーラム（長野市） |
| 10/22 | 子どもの権利サポート委員会報告会 |
| 10/23 | 人権啓発研究集会 |
| 10/25 | 兵庫ヒューマンライツ議員の会 |
| 10/29 | 心の教育講演会 |
| 10/30 | 第45回駅前議会 |
| 11/1 | ペット同伴避難・総合防災訓練 |
| 11/3 | 手塚治虫作品とジャパンコーヒーフェス |
| 11/6 | たからづか民族まつり |
| 11/12 | 兵庫県教育研究集会 |
| 11/19 | 宝同教人権交流学びの集い |
| 11/20 | 西谷消防団操法協議大会 |
| 11/27 | 連合東部地域協議会女性委員会 |
| 12/3 | 記憶の中の「生」石積み活動 |
| 12/5 | ダイバーシティ学習会講師
(株式会社ミライト・ワン) |

11/1 ペット同伴避難・総合防災訓練
(宝塚高原ゴルフ場)

12/3 記憶の中の「生」石積み活動

LGBTs尊重と差別解消の取組

<質問>

LGBTs 当事者のさらなる権利擁護について実施計画にどう位置づけるのか。

<市長答弁>

- ・第3次宝塚市人権教育及び人権啓発基本方針に基づき、あらゆる場を通じて取り組んでいる。
- ・パートナーシップ宣誓制度阪神7市1町連絡会で相談窓口の周知や不動産業者への啓発等実施。
- ・ファミリーシップ制度への拡充の研究。
- ・市内医療機関におけるLGBTs当事者への適切な対応についての働きかけ。
- ・公民館でのセクシュアルマイノリティと人権について考える講演会の開催。
- ・学校などへの講師派遣。
- ・自殺防止対策では、自殺念慮の背景にある社会的要因の一つに、無理解や偏見などがあると捉え、関係機関と情報や対応の連携を図っている。

<質問>

当事者の医療における困難克服のために市立病院は適切に対応できているのか。

<病院事業管理者>

- ・同性パートナーも手術、検査及び入院において同意者や保証人になれること。
- ・入院時の病室選択など、個別に相談して決定。
- ・職員への意識啓発に努めている。

<質問>

LGBTs当事者の子どもたちの権利擁護のための人権教育の取組は進んでいるのか。

<教育長答弁>

- ・教職員が一番のよき理解者、相談者となるよう性の多様性についての正しい理解を図るためにLGBTQ+をテーマにした初任者研修会や現職

研修会を開催。各学校園でも研修会を実施。

- ・LGBTQ+を専門とする人権教育指導員を登録。
- ・学校園では、LGBTQ+を含めた人権教育領域別カリキュラムを作成。昨年度は小中学校30校、公立幼稚園10園が授業・保育を実施。
- ・2018年に教職員向け「性の多様性の手引書」を作成し全教職員に配布のうえ活用してきた。本年授業モデル案の見直し作業を進めている。



<2次質問>

中学校の制服について、体型に合わせたアイテムや生徒自身が着用したいという願い、身体的なストレスも考慮することが必要である。どのアイテムも自由に選べる選択の多様性やその自由度を保証する仕組みや明文化が大事だがどうか。

<学校教育部長答弁>

どの学校でもスカート、スラックスどちらでも選べるようにという取組が進んでいる。各生徒、保護者にしっかり周知しているところである。

< 2次質問 >

LGBTsの人たちの年齢別のカミングアウト状況を見ると、10代55%、20代48%、50歳以上は28%と、若年層ほど高い。

さらに、LGBTsの子を持つ親の心情やニーズに関するアンケートを見ると、カミングアウトされる前にLGBTsについて知っていた方が比較的すぐに受け入れることができた、となっている。市民啓発や社会教育が重要だがどうか。

< 総務部長答弁 >

カミングアウトのハードルを少しでもさげることをしていかなければならない。ちなみに2月に「LGBT子育て論・アマのお母ちゃん流」講演を計画。世代を通して広く啓発をしていきたい。

学校給食について

< 質問 >

物価高騰の影響下の学校給食については、現在国からの補助金を給食食材購入に充てているが、3月に国補助が終了した場合、献立作成・食材調達に困難になるのではないかと。当面、市として補助できないか。

< 教育長答弁 >

- ・現在、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、9月から2023年3月まで、1食あたり25円から30円上乗せして提供しているが、仮に今回の上乗せ額に年間の喫食回数に乗じると、約8000万円の予算が必要。
- ・燃料費高騰による影響で学校に係る光熱費も上昇している中で、市が上乗せ分を補助するのは困難であると考えている。
- ・給食の質を落とすことなく維持するために、一時的に基金の活用を含めた対応も検討している。
- ・本年度同様に交付金などを活用できないか、引き続き国の動向も注視していく。

教職員の未配置問題について

< 質問 >

教職員の病気休暇や育児休業などの代替者が見つからず、管理職不在や担任不在、教科指導が滞るなど、学校運営や子どもたちの学習への支障が出ている状態がある。学校教職員の未配置問題について、市はどのように対策を講じているのか。

< 教育長答弁 >

- ・全国的に教員不足が問題となっており、昨年度始業日時点では、全国小中学校で教員が2086人不足し、全体の0.35%に欠員が生じていた。
- ・本市においても、本年度の始業日時点では常勤の教員の定数配置はできていたが、少人数指導などの加配教員の一部が配置できていない状況。
- ・本市では、代替教職員の確保のため、常時、市ホームページに臨時講師などの登録案内を掲載。
- ・また、退職した元教職員などに個別に声かけを行うほか、近隣市の教育委員会との連携により情報共有を行うなど、可能な限り早期に未配置の状況を解消できるよう、あらゆる手段を講じて人員確保に努めているところ。
- ・一方、病気休暇取得者を減少させる取組も重要であると認識しており、積極的に働き方改革に取り組むとともに、ストレスチェックや医師の面談などによるメンタルヘルスケアの充実にも取り組んでいる。



中山台小統合について

<質問>

中山台小学校統合後の現状と課題は。統合への地域住民、保護者、子ども、教職員、それぞれの立場からの検証と総括を行い、次へと生かすべき。

<教育長答弁>

当初は不安を感じる様子もあったが、今では通っていた小学校を問わず全校児童のみなが、中山台小学校で楽しく生活をしている様子が見受けられる。しかし不安に思う児童や保護者もあり、教職員の負担の増加などもあるが、スクールカウンセラーや加配教員を配置するなどでその解消に努めている。さらに中山台地区教育環境適正化検討委員会で、学校統合の振り返りと今後に生かす方策について検証することとしている。



都市計画道路荒地西山線について

<質問>

小林地域では、開通後の3本の生活道路との交差点の交通安全対策等について不安が広がっている。どのような対策がなされるのか。

<市長答弁>

- ・上道(市道231号線)との交差点については横断する車両などが本線と両側側道と交差することになり安全確保が難しいため、県公安委員会も車両などの横断は認められないと判断されている。
- ・旧県道(市道逆瀬川仁川線)との交差点は歩行者や通行車両の安全確保と交通の円滑化を図るために、信号機を設置する必要性が認められている。
- ・下道(市道木瀬開地棟方線)については公安委員会から歩行者の横断を市道逆瀬川仁川線に集約するよう指導を受けているが、市としては、地域の意向も踏まえ、これまでと同様に信号機設置に向けた働きかけを行っているところである。

北野さと子の意見

下道は通学路であり、だんじり曳行の大切な道でもある。暮らしや安全を守るために、地域住民の願いを受け止めていただきたい。

風のこころ

寺本早苗議員とは2003年当選同期。先輩議員とともに会派「市民ネット宝塚」を結成し、市民の代表としての議会を考えるという指標を掲げ一緒に歩んできた。市民のための活動を続けてきたことを誇りに、5期20年を締めくくりたい。

